

# 都市再生整備計画

おごおりとうぶちく  
小郡東部地区

ふくおか おごおりし  
福岡県 小郡市

平成27年1月

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	福岡県	市町村名	おごおりし 小郡市	地区名	おごおりとうぶちく 小郡東部地区	面積	72 ha
計画期間	平成	27	年度	～	平成	31	年度
				交付期間	平成	27	年度
					～	平成	31
							年度

### 目標

大目標:歴史的な地域資源を活用した観光の振興の実現に向けた取組

目標1:歴史的史跡やサインの整備、近隣市町との観光回遊ルートの設定を進め、地域の伝統を継承しながら、観光客の増加により、にぎわいのあるまちづくりを推進する

### 目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

(まちづくりの経緯)

- ・本市は、昭和30年に小郡町、三国村、立石村、御原村、味坂村の1町4村が合併し、新生小郡町になり、人口の増加に伴い、昭和47年に市制を施行した。
- ・福岡県の南部、筑紫平野の北、佐賀県との県境に位置し、南東を大刀洗町、久留米市に、西は佐賀県、北東は筑紫野市、筑前町にそれぞれ接している東西6km、南北12kmにわたる区域。
- ・本市では、「第5次小郡市総合振興計画」に基づき、都市機能・都市基盤の整備、産業振興、居住環境づくり、健康と福祉づくり、教育と地域文化づくり、地域自治体制づくりを推進することで、安全・安心で、やさしく、住みよいまちづくりに努めている。

(まちづくりの現況)

- ・当該地区には、市内を東西方向に横断する第三セクター甘木鉄道(地区内1駅:松崎駅)があるが、少子高齢化の影響により、鉄道利用者数は減少傾向にある。
- ・当該地区の大部分を占める松崎地区は、薩摩街道の宿場町として、江戸時代よりおおよそ350年の歴史を持つ集落である。明治以降、宿場制度が廃止され、鉄道の開通などにより、交通の要衝としての役割は薄れたが、現在も旅籠油屋をはじめ、一松屋、鶴小屋などの旅籠建築、枡形の道路、構口などの歴史的建造物が数多く残っている。しかし、地区の高齢化の進展とともに、空き家・空き地が増え、まちの賑わいは失われつつある。
- ・また、松崎地区は「豊かな歴史的資源を持つ集落」における「地域住民が主体的に活動する」景観づくりのモデル地区として、景観形成の方針が定められている地区である。
- ・当該地区には、甘木鉄道の駅に近接して松崎宿など歴史的史跡の観光資源があるが、その認知及び活用は十分とはいえず、周辺自治体と連携し、広域な観光の取り組みを実施しているところではあるが、さらなる観光客の誘致が課題である。

### 課題

- ・鉄道を中心とする交通ネットワークを活かした賑わい空間形成のため、鉄道の利便性向上を図ることが課題である。
- ・薩摩街道の宿場町である松崎に建てられた江戸時代の旅籠(旅館)「油屋」は、昭和初期まで旅籠として使用されており、観光客の回遊につながる歴史的な地域資源ではあるが、建物の損傷も大きいため、建物の整備とその後の観光資源としての活用が課題である。
- ・地区内の旅籠油屋をはじめとした歴史的な建築物や構口、枡形などの遺構、祠など、地区の歴史を物語る点的な資源をつなぎ、線・面的な広がりを持って地区の魅力づくりを進める必要がある。
- ・市内外への観光資源の周知やイベントと連動した観光施策の展開、近隣地区を含めた観光客の誘致につながる、西鉄及び甘木鉄道沿線近郊の観光資源を結びつけた観光ルートの構築を行うことで、交流人口の増加を図る必要がある。

### 将来ビジョン(中長期)

- ・第5次小郡市総合振興計画では、将来像として、「人が輝き、笑顔あふれる快適緑園都市・おごおり」を掲げ、政策目標として「安全で快適な都市機能・都市基盤づくり」「豊かな暮らしを支える活力ある産業づくり」「ゆとりと潤いに満ちた居住環境づくり」「やさしさあふれる健康と福祉づくり」「生きる力を育む教育と地域文化づくり」および「新たな小郡市の地域自治体制づくり」を設定し、まちづくりを進めている。特に観光面においては、歴史資源や自然資源などの観光資源を整備し、新しい観光の視点から地域資源をいかし、地域団体との有機的な連携により、新たな観光の魅力化に取り組む予定である。
- ・小郡市都市計画マスタープランでは、「個々を育み共に創る生活緑園都市」をまちづくりの理念として設定している。本市の恵まれた水や緑などの地域資源を大切にしながら、誰もが暮らしやすく、環境負荷の少ない都市形成を目指し、高水準の都市的サービスを提供することによる都市活動の維持を行っていくことや、田園地帯をはじめとする豊かな自然環境、歴史的資源、交通利便性などの地域特性を有効に活用していくとともに、より効率的な市街地を実現できるようなまちづくりを進めていくこととしている。

### 目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値	
				基準年度	目標年度	
対象駅の鉄道利用者数(1日平均乗降客)	人/日	対象地域の鉄道1駅(松崎駅)の1日平均乗降客を調べる。	公共交通の機関の利便性向上を図ることにより、減少傾向にある鉄道を利用している市民の住みやすさの向上を図る	416	平成25年度	420 平成31年度
観光入込客数(社寺・文化財・史跡参拝見学)	人/年	観光入込客数(目的別)の社寺・文化財・史跡参拝見学数を調べる。	市内古建築を整備することにより、歴史的史跡の観光資源を活かした観光客の増加を図る	24,000	平成24年度	25,000 平成31年度

## 都市再生整備計画の整備方針等

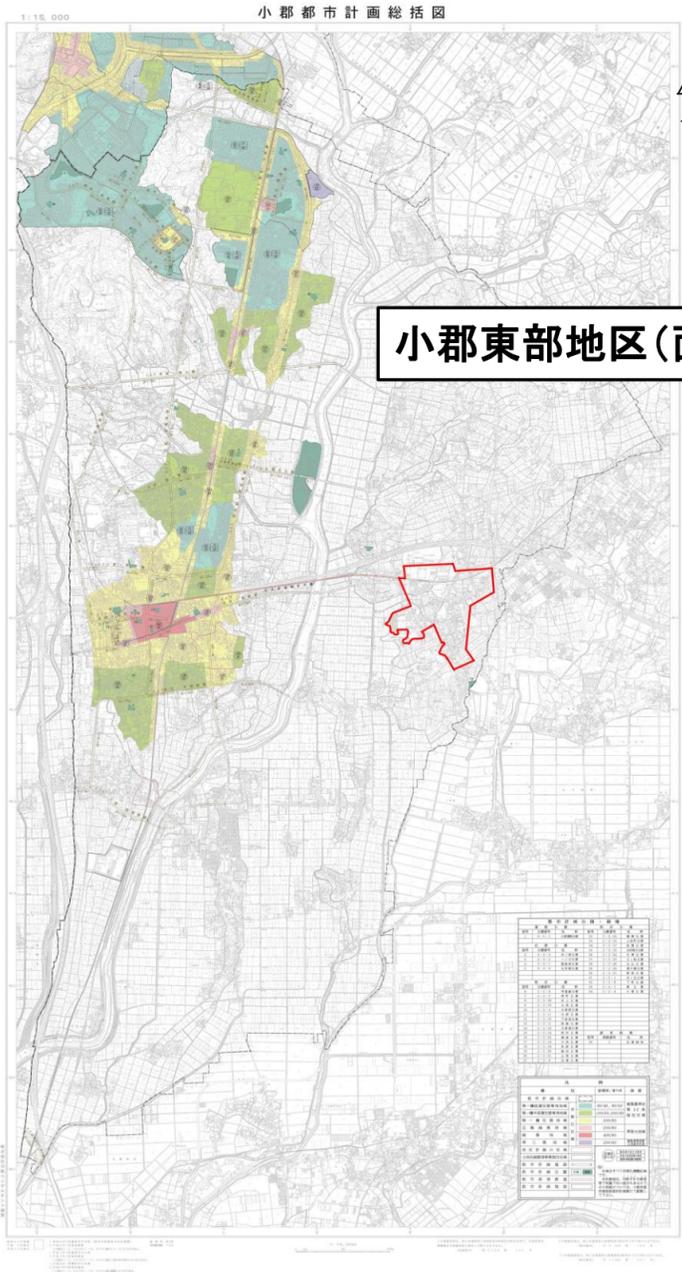
計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針(歴史的史跡やサインの整備、近隣市町との観光回遊ルートの設定を進め、地域の伝統を継承しながら、観光客の増加や他の産業への効果の波及により、にぎわいのあるまちづくりを推進する)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の伝統を継承し観光客の増加によるにぎわいのあるまちづくりを推進するため、市内古建築を活用した整備を行う。</li> <li>・都市再生整備事業に定められたまちづくり目標の達成状況等、交付金がもたらした成果を客観的に検証し、今後のまちづくりの方針にいかしていく。</li> <li>・市内鉄道沿線の近郊に点在する歴史的観光資源を結ぶ観光ルートづくりを行い、観光客の増加を図る。</li> <li>・観光拠点施設の整備を行うとともに、案内標識・看板などのサイン整備及び観光資源PR事業を進め、公共交通機関を活用した観光ルートの周知を図り、観光客の増加につなげる。</li> </ul>	<p>■既存建築物活用事業(基幹事業／市内古建築整備事業／市)</p> <p>■地域生活基盤施設(基幹事業／甘木鉄道沿線サイン整備事業)</p> <p>□事業活用調査(提案事業／事業効果分析調査／市)</p> <p>□地域創造支援事業(提案事業／観光資源PR事業／市)</p> <p>○(関連事業／小郡市公共サイン整備事業／市)</p>

<p>その他</p>
------------



都市再生整備計画の区域

小郡東部地区(福岡県小郡市)	面積	72 ha	区域	松崎の一部、上岩田の一部
----------------	----	-------	----	--------------



# 小郡東部地区(福岡県小郡市) 整備方針概要図

目標	○歴史的史跡やサインの整備、近隣市町との観光回遊ルートの設定を進め、地域の伝統を継承しながら、観光客の増加により、にぎわいのあるまちづくりを推進する。	代表的な指標	対象駅の鉄道利用者数 (人/日)	416	(25年度)	→	420	(31年度)
			観光入込客数(社寺・文化財・史跡参拝見学) (人/年)	24,000	(24年度)	→	25,000	(31年度)

